

(2) 集客力が高く良質な観光資源の開発

基本的な考え方

旅行地としての東京の魅力を高めるため、これまでにない新しい視点を持ち、地元ならではの観光資源を作り出すとともに、特に多摩・島しょのエリアでは地域の特色である豊かな自然や農林水産業を生かした観光振興を進めていく。

また、地域ごとの観光振興の担い手の対応力を伸ばして、都内の各地での旅行者の誘致を活発にする。

新しい視点に立つ取組

- 東京には既に有名となり集客力も高い観光資源が数多くあるが、これからの旅行者の増加に応じて観光へのニーズの多様化に適切に対応するため、新しい発想や考え方により新たな観光スポットやツアーを作り上げる取組を進めていく。

地域の特色を生かす対応

- 地域ごとの多様で優れた特色に磨きをかけて観光資源として開発し、より多くの旅行者誘致に結び付ける取組として一定の期間をかけて着実に支援を行うことなどにより、地元経済の活性化に結び付けていく。

多摩と島しょへの来訪者の確保

- 都内を訪れる旅行者が多摩や島しょの地域を訪れることが増えるよう、森林や海洋などの自然のほか、農林水産業を生かして外国人などの興味や関心の高い観光資源を生み出していく。

地域の観光関連団体の対応力の向上

- 都内の各地域の観光振興の力を伸ばすため、観光協会などの団体が新しい知識やノウハウを持ち、事業の展開に必要な財源も確保できるよう支援していく。

（東京で大きなポテンシャルを持つ観光資源の活用）

- 海外から東京を訪れる旅行者を増やすためには、新しい視点に立って外国人の興味と関心を惹きつける観光資源を創り出すことが不可欠である。そのため、東京で大きなポテンシャルを持つ水辺空間に賑わいを生み出すほか、東京の治安の良さを生かして、夜の観光の魅力を高めることを目指し、建造物や身近な自然をライトアップなどによって観光資源として活用することや、様々なナイトライフ観光を促進することが必要である。

＜パリの事例＞

歴史的建造物のライトアップ



＜シンガポールの事例＞

水辺を活用したナイトライフ

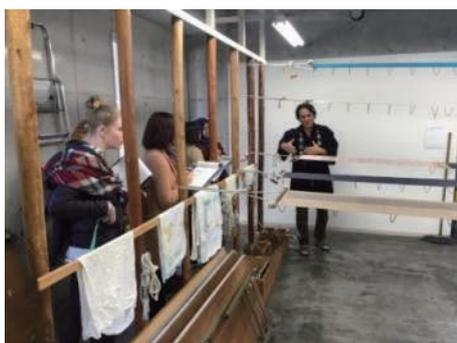


(写真提供:シンガポール政府観光局)

（都内の観光資源の更なる活用）

- 都内にはすでに数多くの魅力のある観光資源があるが、旅行者の多様な関心に対応していくためには、それらの観光資源を生かす取組や観光資源同士を有機的に結び付ける取組が必要である。
- 巨大な公共インフラなどを見学してその役割の重要性を学ぶツーリズムのニーズが高まり、全国各地でも取組に力を入れている中で、都でも様々なインフラを生かして観光振興に結びつけることが課題となっている。

<染めもの体験のモニターツアー>
(新宿区)



<隅田川に架かる橋>



(アニメ・マンガ等のコンテンツの活用)

- 東京には「クールジャパン」として注目されるアニメやマンガ等のコンテンツ関連の資源が数多く存在している。こうした外国人旅行者を惹きつけるコンテンツを観光資源として活用し、旅行者の誘致に結び付けるとともに、国内外への効果的な情報発信を行うことが重要である。

(多摩・島しょ地域の観光振興の取組への支援の充実)

- 多摩・島しょ地域への旅行者の誘致を推進するため、魅力ある観光資源を活用したより効果の高い観光施策を展開することが重要となっている。そのため、多摩・島しょ地域の特色である自然や農林水産業などを生かした観光ツアーを増やしていくことや、新たな視点や発想を取り入れた事業展開が必要となっている。
- 多摩地域の更なる観光振興のため、商工団体や観光団体などをはじめとする様々な民間団体が力を合わせて自治体の区域を越えて観光の資源やルートを開発することが重要となっている。
- 島しょ地域への誘客を進めるため、島しょ地域を訪れるインセンティブを導入するとともに、観光振興が地域経済の活性化につながる仕組みを作り上げていくことが必要である。

<豊かな自然(高尾山)>



<世界遺産(小笠原)>



- 地域内の移動手段が十分に整備されていないエリアが存在する多摩や島しょ地域では、観光客が自転車などの交通手段を活用し、限られた時間の中で楽しく観光スポットを周遊できる仕組みを作り上げることで、観光客の満足度を高め、再来訪につなげていくことが重要となっている。

(観光関連団体への更なる支援の必要性)

- 観光協会など地元の観光関連団体は地域の観光まちづくりの担い手であるが、知識やノウハウのほか人材や資金面からの課題も多く、十分な事業展開が難しい場合がある。

平成 30 年度の主な施策展開

(水辺の賑わいの創出)

- ▶ 東京の河川や港湾などの水辺空間をより一層活用するため、地域が行うにぎわい創出に向けたイベントについて夜間でも楽しめる取組への支援を充実するとともに、ホームページによる水辺を巡る観光ルートを紹介や舟運のPRなどの情報発信、船着場等の整備を進めていく。

<天王洲の水辺イベント>



<ウェブサイト「東京舟めぐり」>



<舟運の社会実験>



(ライトアップ等による演出への支援)

- ▶ 桜や紅葉などの身近な自然に加え、建造物、イベント等を活用したライトアップの取組を支援することで、観光面での魅力を引き出して集客につなげる。また、プロジェクションマッピングなどによる演出を活用した観光関連団体等の取組に対し支援することで、旅行者誘致を促進していく。

<都民広場におけるイベントでのプロジェクションマッピング>



<桜のライトアップ(国立市)>



(ナイトライフ観光の充実)

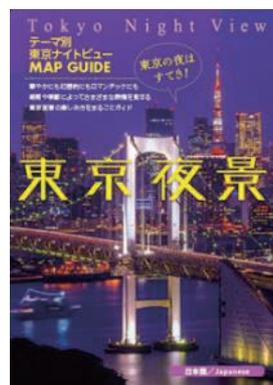
- ▶ 東京での夜間の時間帯の観光を楽しめるよう、外国人旅行者のニーズや海外の取組事例などナイトライフ観光の現状などを把握するための調査等を実施し、今後のナイトライフ観光の振興策等について検討する。また、モデル観光ルートを作成するとともに、国内外の発信力のあるブロガーやホームページ等を活用して海外に向けて効果的に情報発信を行う。

<ナイトライフ観光の例>

ナイトクルーズ



<「東京夜景」マップガイド>



(地域の歴史や文化に着目した観光資源の活用)

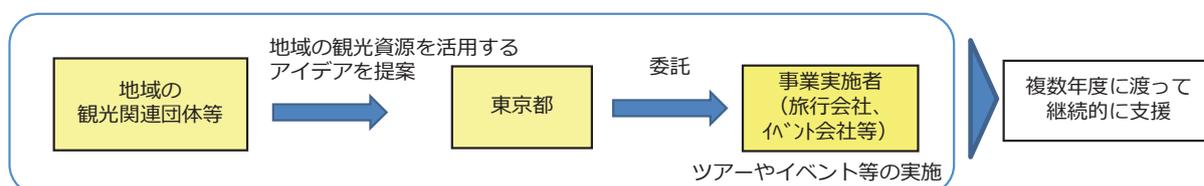
- ▶ 地域の観光関連団体が地元の企業や団体と連携して、都内の各地域の歴史や文化等を観光資源として活用して新たな街歩きツアーを作り上げる取組のサポートを強化する。

<街歩きツアー（イメージ）>



- ▶ 都内各地域の観光関連団体等から募集した地域の魅力的な観光資源を活用するアイデアを、旅行事業者など民間のノウハウを使ってツアーやイベントとして実施し、複数年度に渡って継続的な支援を行う。

<事業イメージ>



- ▶ 都内のダムや橋梁等の公共インフラを活用して観光ルートを作り、東京の優れた技術力などを広く伝えていくため、インフラツーリズムの推進に向けた取組を着実に実施する。

<ダムの見学>



<環状7号線地下調節池の視察>



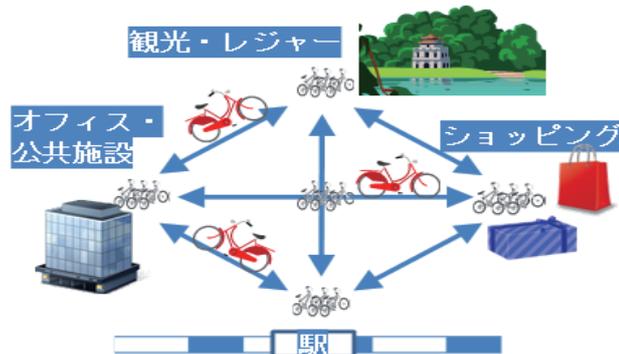
- ▶ 外国人の関心が高いアニメやマンガなどのコンテンツを活用して観光振興を行う区市町村や地域の取組をソフトとハードの両面から支援する。
また、国際アニメーション映画祭である「東京アニメアワードフェスティバル」への支援や、アニメ制作に関する貴重な資料の展示、アニメに関連するスポットを巡るイベントの開催を通じ、世界に誇る日本のアニメ文化の発信と国内外の観光客の誘致促進を図る。
- ▶ 海外の映像業界関係者が多数集まる見本市にブースを出展し、ロケ地としての東京を世界に広くPRすることで、海外映画・ドラマ等における東京へのロケ誘致を促進し、映像作品を通じた東京の魅力発信につなげていく。

<東京アニメアワードフェスティバル(2017年)>



- ▶ 通勤や通学などの日常的利用に加えて、旅行者が観光地を快適に移動できる自転車シェアリングの利便性を高めるため、東京都市部の7区（千代田区、中央区、港区、新宿区、文京区、江東区、渋谷区）が進める区境を越えて相互利用できる「広域相互利用」の取組を支援していく。

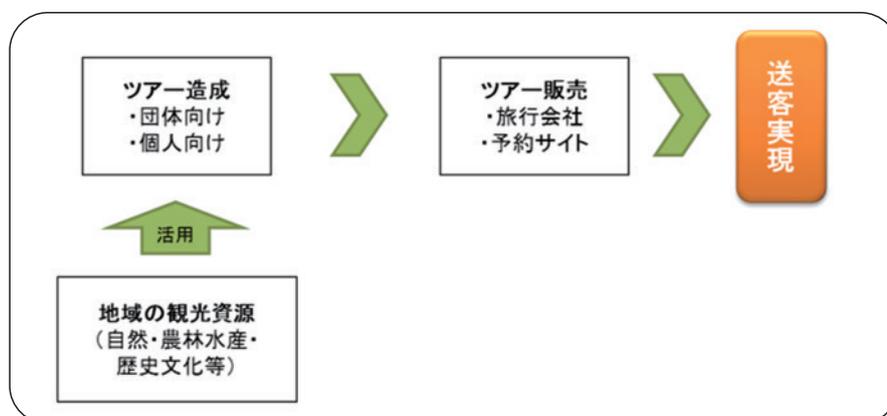
＜自転車シェアリング事業＞



（多摩・島しょ地域の観光振興に向けた取組）

- ▶ 多摩・島しょ地域を対象として、民間事業者や団体が行う、グランピングなどの新たな楽しみを提案する体験型・交流型の観光事業開発に対する支援を行い、観光地としての魅力を高めていく。
- ▶ 外国人に人気の高い農業体験や自然を生かした多摩・島しょを訪問する観光ツアーの造成・販売に対する支援や、多摩や島しょ地域に広がる自然公園を活用したモニターツアーの実施などの観光振興を進めていく。

＜多摩・島しょ訪問観光ツアーの造成・販売に関する事業イメージ＞



- 近年、グランピングをはじめ、豊かな自然など地域の資源を活用した体験型・交流型の新たな旅行形態が注目されています。
- グランピングとは、グラマラス (glamorous) とキャンピング (camping) を掛け合わせた造語で、高級かつ魅力的な雰囲気味わえるキャンプのことです。
- 自然の中に、豪華な内装のテントが設置され、ホテル並みの食事やサービスが提供されます。2010年頃から欧米で流行し始め、日本においても近年話題となっています。
- 都では、多摩・島しょの自然を活用した先進的な取組を広める事業の中で、奥多摩町に平成30年3月に新たにオープンするグランピング施設をモデルプロジェクトとして選定しました。

＜奥多摩町でのグランピング イメージ＞



- ▶ 多摩や島しょ地域などへの送客拡大を図るため、都内エリア別の旅行者数に関する調査を実施し、観光振興施策の立案や効果検証のための基礎資料として活用していく。
- ▶ 旅行者の興味の度合いに応じて地域の特色ある観光情報をウェブサイトやSNSなど、様々な媒体を活用して効果的に発信していく。また、多摩・島しょ地域の自然やアクティビティなどを疑似体験できるVR映像を作成し、PRに活用していく。

<公式サイト「TAMASHIMA.tokyo」>



モデルコースの紹介



- ▶ 多摩や島しょ地域で各々に離れた場所にある観光スポットを効率的に巡ることのできる交通ネットワークの充実に向け、モニターツアーや実証実験を行う。
また、観光スポット間の移動手段として、電動アシスト自転車の導入や、活用促進に向けた支援を実施していく。

<モニターツアー(多摩地域)>



電動アシスト自転車[イメージ]

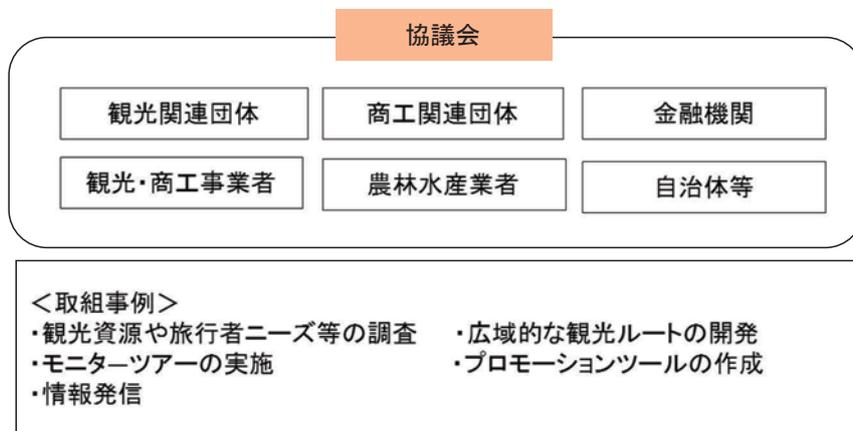
<モニターツアー(式根島)>



超小型モビリティ[イメージ]

- ▶ 多摩地域での観光振興を効果的に進めるため、観光関連や商工関連の団体などが協議会を設けて観光振興の企画を検討し、その実現を図る取組をサポートしていく。

＜協議会のイメージ＞



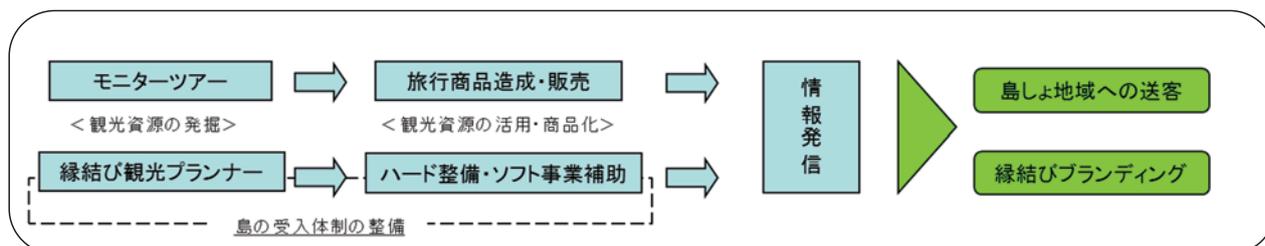
（島しょ地域への誘客促進に向けた取組）

- ▶ 島しょ地域の魅力を高め、観光客の誘致につなげるため、各島の観光資源を「宝物」としてブランディングする取組を支援する。
- ▶ 島しょ地域の新たな観光のあり方として、婚活等を目的として船で島しょを巡るツアーの販売を進めるため、民間事業者の取組を後押しする。また、こうした事業を効果的に展開できるよう自治体や観光協会が自主的に取り組む事業につなげるための支援を行う。

＜「縁結び」をテーマとした島しょ地域の観光ガイドブック＞



＜事業スキーム＞



- ▶ 島しょ地域で宿泊や観光に利用可能なプレミアム付宿泊旅行商品券（しまぼ通貨）を販売することにより、島しょ地域への持続的な送客と、現地での観光関連の消費の促進を図る。また、島しょ地域の観光関連団体が連携して行う、旅行商品等の開発やプロモーション活動などの取組を支援していく。

しまぼ通貨

<しまぼ通貨とは>

- ▶ 東京の11島などの加盟店で利用できるプレミアム付宿泊旅行商品券。電子しまぼ発行後に購入可能。

<しまぼ通貨の使い方>



公式サイトで電子しまぼを発行後、しまぼ通貨を購入



加盟店で宿泊や土産物の購入等に利用



電子スタンプを押印してもらい決済が完了



(電子しまぼとは)

- ▶ スマートフォンで利用できる「東京島めぐり PASSPORT (愛称：しまぼ)」。
- 発行後は東京の11島をめぐるスタンプラリーに参加でき、特典加盟店で提示すると、割引等のサービスが受けられる。

(地域の観光関連団体の活動の強化)

- ▶ 観光協会など地元の観光関連団体が幅広い取組ができるよう、地域の観光施策を総合的に支援する窓口を設置し、複数のアドバイザーがチームで支援を行うなどサポートの充実を図る。
- また、地域の発信力の強化に向け、映像等のデジタルを活用した発信を行う取組への支援を行う。

<アドバイザー派遣>

